

会 議 録

会議名 (審議会等名)	相模原市立図書館協議会		
事務局 (担当課)	図書館 電話042-754-3604 (直通)		
開催日時	令和5年3月22日(水) 18時30分～20時00分		
開催場所	相模原市立図書館 2階 中集会室		
出席者	委員	8人(別紙のとおり)	
	その他	2人(生涯学習課総括副主幹、他1名)	
	事務局	9人(図書館長、相模大野図書館長、橋本図書館長、他6名)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 不可	<input type="checkbox"/> 一部不可
	傍聴者数	1人	
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
議 題	<p>1 報告事項 (1) 次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくり事業について</p> <p>2 議題 (1) 令和3年度図書館事業評価について (2) 中央図書館機能及び本市図書館行政のあり方の検討枠組みについて</p> <p>3 その他</p>		

議 事 の 要 旨

(事務局) まず、次第の変更について御報告する。開催通知等では、議題の2点目について「図書館協議会の部会設置について」としていたが、その後資料作成の中で、協議会の部会設置も含めた検討の枠組み全体の内容について整理をしたため、資料3の議題に変更をさせていただいたのでご承知いただきたい。また、今日の議題の(1)、(2)について、順番を入れ替えて進行させていただきたい。

(大谷会長) 議題の(2)は報告事項(1)の案件と関係があるので、順番を入れ替えさせていただいた。

1 報告事項

(1) 次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくり事業について

資料1に基づき、生涯学習課から説明を行った。

(大谷会長) 1点補足すると、パブリックコメント内に出てきた矢川プラスは児童館ベースの複合施設となっており、新しく整備する複合施設に児童館も入るということもあって、御意見をいただいたものと思う。では、私と高柳副会長が昨日市民検討会に出席したので、その時の様子を少しお話ししたいと思う。まずは高柳副会長からお願いしたい。

(高柳副会長) 昨日が25回目の市民検討会ということで、コロナの影響で間延びした部分もあったが、4年間という本当に長い期間をかけて、25回の検討を重ねてきた。やはり市民の声をきちんと聞いていくということ、色々共有しながら丁寧に進めていくということの結果が、25回の会議の開催となったのだと思う。様々な観点の方が集まっていて、色々な角度からの御意見を聞くことができたので、自分たちの勉強にもなったし、後は様々な角度から考え直すこともできた。図書館協議会もそうだが、毎回毎回本当に行政の方たちが資料を丁寧に準備し、きちんと説明をしてくれるので、色々な角度から考えることができ本当に良かったと思うし、昨日の各委員の方の振り返りの声でも、そういった内容が多かったと思う。ただし、一方でどうしても本当に関わっている当事者だけで進んでいるところがあるので、パブリックコメント等は実施しているものの、もう少し多くの市民の方に、例えば本当に公民館を利用している人たちが全て参加して理解しているかというところでもない、引き続きこれからも市民の声を拾っていけるよう取り組んでほしいという声が上がっていた。後は、やはりその箱というか施設のことばかりの話がされていて、運営面については話があまりできなかったという意見があった。恐らく、その様な内容はこれからだと思うので、そういった面からも、今後はこの協議会が凄く重要になってくるのではないかなという印象を受けている。

(大谷会長) 委員の皆さんも、最初の頃は多少厳しい雰囲気の時もあったが、昨日は和気あいあいとした雰囲気で進行した。もちろん、納得していないとかそういう御意見もあるにはある。ただ、立地に関しては私が参加する以前の話となるが、各委員の皆さんが意見を出し合った上で、だからこの場所が望ましいとかそういう議論を尽くして、この様な形でやろうと決まった。その上で、この方向性でいきましょうという大まかなコンセプトも、数回に渡ってワークショップを行い作っていったので、市民熟慮としてはそれなりにやるべきことをやったと思っている。ただ一方で、今度はこの図書館協議会としてどう考えるかということにおいて、地域住民の方にとっての施設という側面と、相模原市全体の図書館行政として、その各地域の支援も含めて、行政活動を展開していく拠点としてどう考えるかという側面があり、その地域住民の皆様にも市全体の拠点について考えてくださいというのは少し酷である。委員の方からもその点については、要素は2つあるということは承知しているとのコメントもあったが、やはり図書館としてどうしていくのかということに関しては、この協議会などで色々な意見を出していくことが求められているかなと思っている。まずは地域の皆様としては、施設という部分を考えていくべきだろうということがあり、個人的には市の中央図書館の話も考えてくださいとは言ったが、あまりそれを強く言い続けるよりは、まずはその地域の施設という視点で私自身は会議に参加していたつもりなので、だからこそ今度は市民の皆様の期待に沿いつつも、どうやって中央図書館としてやっていくのかということはこの協議会で考えていかなければと思った次第である。以上、高柳副会長含め、会議に参加したメンバーからの補足、感想をお伝えした。後、音楽ホールについては色々難しい点もあり、申し訳ない部分がある。

(金子委員) 仕方がないとは思う。

(大谷委員) ただし、やはり市政の課題ではあるだろうなという気持ちは、私自身、図書館協議会から離れた一関係者としては感じている。だから、何とか上手く他の検討の場などに出せると良いとは思っている。

(金子委員) 新施設完成は、いつぐらいを目途としているのか。

(大谷会長) 令和11年度竣工予定と認識している。ただし、竣工後即座に使えるわけではないかと思うので、その後数ヶ月かかって、実際は11年度終わりぐらいから12年度の頭ぐらいに、施設として使用開始ということになるか。

(生涯学習課) 令和11年度中の開始ということで予定している。

(大谷会長) 承知した。ただ竣工直後ということはないと思う。やはり揮発材を飛ばすとか、ハウスシックなどの問題もある。

(金子委員) 色々難しいとは思う。色々な意見が飛び交っているが、舵取りをきちんとしていかないと、バラバラのまま過ぎていってしまう。パブリックコメントで出された皆様のご意見の内容については、よく分かる。

(大谷会長) 全体のコンセプトは、少なくとも委員の中では相当議論した上で落ち着いている。ゆるやかなつながりが分からないというご指摘は複数あったが、施設として、行政側がとにかくこうやってつながりましょうとか強制するのではなく、市民のお互いの活動を可視化することで、何か面白そうなことやっているなあに興味を持ってもらい、そういったものをふんわりつなげていこうというコンセプト、それをゆるやかなつながりと言っているので、多分そこは説明すればご了解いただけるかなと思っている。講座とか企画があるのでさあ来てください、さあみんな繋がりましょうということではなくて、日々の市民の皆様の活動の中身をお互いに可視化することで、面白そうなことやっているので私もやってみようと言って盛り上がるとうい、そういうコンセプトである。

何か御意見があれば伺いたい。なければ次の議題に進みたいと思う。

(各委員) 意見なし。報告内容了承。

2 議題

(大谷会長) 議題の順番を先ほど言ったとおり変更し進める。(2)については、施設としての大枠の話の踏まえた上で、中央図書館機能及び相模原市の図書館行政のあり方の検討に関してとなる。

(2) 中央図書館機能及び本市図書館行政のあり方の検討枠組みについて
資料3に基づき、事務局から説明を行った。

(大谷会長) 淵野辺駅南口の事業に関して、令和5年度に大規模事業評価を行う予定なので、そこまでにこの機能が必要ですよということを言わないと、事業総経費の中から抜け落ちる可能性がある。だからそれに間に合うように、ある程度、例えば中央図書館としてこういうことをやるためにはこういった機能や、それを実現するための設備、人員が働ける環境など、これが必要ですよということを出さないといけない。そうすると、協議会の開催予定は6月、9月となっているが、場合によっては9月ではもう遅い。だから協議会での検討はあまりに厳しいということで、部会を設定した上で、この部会の中で、7月ぐらいまでは月2回程度でも済まないかもしれないが、少し密度を上げて議論をしていく。例えば中央図書館として様々な地域の施設へのサポート、支援業務を行うのであれば、対象の施設は何か所なのか、そのルートを考えてときに、では公用車はどれくらい必要でといったことや、それを円滑に行うにはどういう拠点にしなければいけないとか、それから具体的な数なども踏まえて、議論を進めないといけない。そのためには、協議体のような会議体で、いちいち確認しながら進めるのはなかなか大変ということで、もう少し密度高く検討できるような場が必要になる

ということである。また、やはり人数が多いとどうしても集まるための調整のコストも結構かかってしまう。ただし、もちろん部会でひたすら決めてという気はなくて、協議会には都度6月にもお伝えするし、9月にもお伝えする。ただ9月を待っていると大規模事業評価の関係が少し怪しいかもしれないというところもあるので、結果的にその部分は報告だけになってしまうかもしれないが、とにかくできるだけ、協議会全体で確認する場は設けたい。完成後はずっと中央図書館となるわけで、10年、それ以上に中長期的にやはり図書館として困るということがないようにしなければいけないので、何か検討の場を考えようということで図書館長を始め図書館の皆さんと御相談して、こういう形でということになった。なお、部会の規模は、当然この協議会全員ではなくて、一部、半分以下の規模となる。

(金子委員) そういったことを考えていくということで、専門の方でやっていただくという形で良いと思う。

(大谷会長) 後は、こうした業務を考えていく中で、例えば、比較的過疎の地域への読書施設への支援をどうしようかなということ、やはりそういったことに関わっている方などにも加わっていただくのが良いかと思うので、その上で半分を切るぐらいの人数で検討していく形で進められればと考えている。会議の形態などは未定ではあるが、それなりの頻度で集まって決めるべきだとは思っている。

(遠藤委員) ということは、メインになる方が何人かと、テーマに合わせて随時必要な方を集めて審議するという形になるのか。

(大谷会長) ある程度最初にこのメンバーで行うということは決めるかと思う。ただし、案件によってはこういった立場の方がいないと駄目だという場合も考えられるので、当然そういった際は加わっていただくということはある。

(金子委員) 良いと思う。

(遠藤委員) 設置する部会は1つということで良いか。資料には部会の所管事項として4つの項目が書かれているが、それぞれ部会を設置するのではなく、4つの項目全てを1つの同じ部会で審議するという理解で良いか。

(大谷会長) そうである。恐らくメインはどちらかということ、淵野辺駅南口の事業に間に合わせるということが最優先で、令和6年度にかけてと館長から説明があった案件に関しては、比較的じっくりと、協議会にもフィードバックしながら、協議会全体で協議してじっくり進めていくべきかなと思っている。一方で急がなければいけないものに関しては、少し密度を上げて、迅速に検討していくと、そういった形になると思う。

(金子委員) 私は社会教育委員会の委員でもあるのだが、社会教育委員会でも小委員会で専門の方々が集まって舵取りをしてくださるので、やはりこの部会はとても良いことだと思う。

(大谷会長) では、この部会設置自体に関しては、お認めいただいたということでもよろしいか。

(各委員) 異議なし。

(大谷会長) 部会の構成については、4月で異動等や環境が変わる方もいらっしゃる、今すぐに決めるのは難しいと思うが、ただそうは言ってもあまり時間の余裕もないので、恐らく4月早々に、ある程度異動や生活状況を確認できる状況になり次第、事務局の方から個人的に部会の委員をお願いできないかという問い合わせを行うことになると思う。どういう構成になるのかとか、まだ具体的ではないので、その辺は図書館側と協議しながらやっていく。もし事務局から問い合わせがあった際は、好意的に引き受けていただくようよろしくお願いいたします。現時点では大体この協議会の半分を少し下回るぐらいの規模でイメージしていただいて、具体的な構成や会議の開催形態等は、メンバーの方に打診して確定してその人たちがどういうタイミングで集まれるかということ踏まえて決定していくということで、ご了承いただけたらと思う。よろしいか。

(各委員) 異議なし。

(大谷会長) ということで、できるだけ実際に図書館の方からもかなり具体的な色々な数字を出していただいて、それで検討して、この淵野辺駅南口の事業全体にきちんとフィードバックをしていくことになるので、図書館に関しては生涯学習課に提出になるかと思うが、この事業全体の中で検討していただけるようご協力いただければと思う。

(事務局) 話を聞いておいてもらった方が良いので、場合によっては、部会には生涯学習課の職員も一緒に出席できればと思う。実際に、これからは生涯学習課とかなり連携をして進んでいかなければいけないところに来ているので、その点をご了承いただきながら進めていければと考えている。

(大谷会長) そのとおりだと思う。では、議題の(2)は承認をいただいたということで、詳細については年度が変わった後に、事務局から連絡がいくということをお願いしたい。それでは生涯学習課はここまでとなる。

※生涯学習課退席

(1) 令和3年度図書館事業評価について

資料2-1、2-2に基づき、事務局から資料についての説明を行った後、大谷会長の進行で評価内容等について協議した。

(大谷会長) 評価に関して、委員の皆様から一部確認したい事項が挙がっていたが、その内容を本文に載せるのはそぐわない。ただ一方で、当然こういった確認は大事なので、今回会議の資料として用意をしていただいた。今年は、この評価をそもそもどうするのかという話があり少し遅れてしまったが、

今後きちんとこのスケジュール、やり方が確立すれば、こうした確認事項等の内容を1回見て確認するぐらいの時間的な余裕はできると思う。今回は申し訳ないが、今年度中に評価を確定させないといけないという部分があるので、資料の2-2という形で、委員の皆様からの事実確認などに関しては整理させていただいた。資料2-2の掲載内容を記入された委員の方は、こちらでご確認いただき、更に疑義等がある場合は御質問いただければと思う。

(大谷会長)では資料2-2もあるのだが、まずは資料2-1のいくつかの部分が、この協議会できちんと決めないといけない事柄となっている。20ページの外部評価の段階評価の総合評価。ここが何も書かれておらず、ABCDで付けるということだけが決まっている。図書館の方で行う評価に関しては、1ページ目から2ページ目にかけて説明があり、成果、取組に関して、それぞれどういう段階評価があって、それがどういうポイントで、総合評価として組み合わせるとどうなるのかという説明がある。一方で、私たちが行う外部評価に関しては、ABCDは2ページに書かれた4段階の定性的なものとなっているため、ここで決定するということになる。また、それと同時に総評の部分に関して、何点かこの会議体として決定すべき部分がある。まず最初の段落部分について、私の方で文案を用意させていただいたが、「確認」という言葉が2回出てくるので訂正して読み上げる。この部分は我々の評価として一番重要なところである。訂正した内容は、「相模原市立図書館協議会は令和3年度相模原市図書館事業評価(案)を熟読して」で、「確認」を「熟読」に訂正した上で、「令和4年度第3回相模原市立図書館協議会で確認した評価枠組みに基づき、相模原市立図書館による内部評価が適切に行われていることを確認した。」となる。つまり、評価そのものを図書館はきちんと行ったという、この確認は絶対にならないといけない。その上で、今私が読み上げた表現で良いかということが、まず確認が必要な点となる。そして、総評の2段落目から、「以上の点を踏まえて」の前まで、2番目、3番目、4番目、5番目の段落が、複数の委員の方が述べられていたことや、全体的にはこうだったのかなと私なりに汲み取った上で、全体の総評として文面を作成した。やはり、コロナの問題で一部厳しい部分はあるのだが、そうは言っても、今後はきちんと成果の達成を目指して欲しいという意見や、それでも職員の取組は比較的良かったのではないかと、といった御意見が多かったと理解している。ただし、成果指標の達成が低調というのは、これは図書館職員の努力を超えるレベルのところ、図書館の蔵書がやはり足りないのではないかとということが考えられる。これは決して単に図書館のエゴということではなくて、その地域の持続可能性を達成するという観点で見たときに、やはり蔵書を充実させるということは必要であり、だから市全体の行政として考えてくださいということを協議会の総意とし

て、総評という形を出してはどうかという提案となる。この点も、委員の皆様のお意見を踏まえて決めたいと思う。そして、3 つ目は提案となるのだが、各委員の意見が 20 ページの下のところから始まって、28 ページまで続いており、少しまとめようかなと思ったのだが、かなりまとまった文章で意見をいただいているケースが多かったので、あまりその文意を損ねるのも好ましくないと思った。ただ一方で、外部評価の前までで 19 ページ分あり、そこに私たちの全ての意見を寄せて、28 ページの報告書という形が良いのかは疑問である。そこで、総評の方では少し相模原市さん考えてくださいと割と強めに言ったので、細かい個々の御意見に関しては掲載はするが資料として扱ってはどうかと考えている。それぞれの委員からこういった声が挙がっていますよという形で掲載はするが、本文ではなく資料に移すという考えである。また、もう少しポイントも若干小さく、行間も少し詰めて、コンパクトにしても良いかと思う。ここで長々書くのが定例化し、お互いに他の委員の方がこんなに書いているから私達もとなってしまうと、また前の話に戻ってしまうので、体裁に関する提案が私からの 3 つ目の話ということになる。まとめると、まずは総合評価をどうするかという点、これは最後に色々意見交換した上で決めれば良いと思う。次が、総評の最初の部分について、間違いなく図書館は評価をきちんと行ったというこの事実関係を明確にし、ここで記録として残し確認を取ること。続いて、総評はこういった内容で良いかということの確認、最後に各委員の意見の取り扱いについて、以上の点をここで決めて記録として残したいと思う。まずは、それぞれの各委員の御意見も踏まえた上で、最後は総合評価に繋がると思うので、総評の内容について、感想のレベルでも構わないし、ここはもう少しこういうことも入れるべきであるとか、そういった意見交換をしたいと思うがいかがか。

(遠藤委員) 総評の最初の 3 行については、定型文というか恐らく決まり文句で、ここはそんなに変える必要はないと思う。後は、その後段の部分についても、非常にコンパクトにまとまっており素晴らしいなと思う。そのため、この部分も特段、手を加える必要はないかなというのが感想である。

(佐々木委員) 総評の 5 段落目、「人口の社会減対策」は「社会の人口減対策」ではないのか。

(大谷会長) これは、いわゆる自然増、自然減に対しての社会増、社会減の意味合いである。要するに、自然減に関しては、日本の社会が人口減少社会になるので、それをどうひっくり返そうかということは図書館がどうこうできるレベルではない。ただし、私が個人的に持っているデータでは、人口 3 万人未満の自治体で、図書館を設置しない方が人口減少は加速していく。図書館があるからという訳でもないと思うが、図書館も揃えられないともう住民は一方的に逃げていく状況になりつつある。なにしろ、3 万人の自治

体の80%以上が、これから25年間で20%ぐらい人口が減る。2045年ぐらいには、総人口から毎年相模原市ぐらいの人口が減っていく。日本はそういう時代になる。そして人口の社会減に関しては、行政評価局という総務省の中の部署が国会に報告を出しているのだが、その中でまちづくり行政について自治体に意見を聞いたところ、人口の社会減に大事な対策は何かというと、もちろん経済は大事で地域経済がなければ生きていけないが、次に来るのが教育文化と答えている。やはり教育文化がないと、ここに住む意味は何かということになり、だったらもっと他の利便性の良い所に移れば良いのではという風になっていく。以上の点を踏まえて地域の持続可能性を考えると、人口の自然減はもう仕方がないが、住民が地域を見放していくことがないようにするためには、教育文化が大事で、その教育文化の中でも図書館は大事ですよという意味で総評は書いている。この表現が少し分かりづらいということであれば、今ここで確認を取りながら修正したいと思うが、総評を書いた意図としてはそういうつもりである。後は、最後の部分に関しては、市長がシビックプライドという言葉をよく使っていて、その表現をそのままダイレクトに入れるかどうか少し考えたのだが、今回は入れずに、むしろ持続可能性とか地域の誇りとか、一般的な言葉を使用した。この点についても、シビックプライドという市長が掲げているものに直接結びつけて書くか、少し距離を取って一般的な表現にするのか、書きぶりに関して少し御意見いただけたらと思う。

(遠藤委員) 市長の執行機関ではないので、そこに迎合して同じ言葉を使う必要はないと思う。逆に使わない方が良いのではと思う。

(大谷会長) 私もここで使わなくても良いかなとは感じており、一般的な要望として、今の文面でいければ良いと思っている。なお、結果として、シビックプライドということと結びついているというのは、分かると思う。また、先ほどの佐々木委員の御指摘に答える文面を考えてみたい。

(佐々木委員) 社会減という言葉に馴染みがなかったが、無理に変える必要はない。

(大谷会長) 自然増自然減が、生まれてお亡くなりになるということに対して、社会増社会減は転入転出のことである。結局、今の日本の自治体人口のベースは、どこだってもう自然減である。ただし、社会増で流入する地域は人口がまだ微増、一方でどんどん社会減になっているところはもう人口減少が厳しいと、そういう状況になっている。

(宮原委員) 資料費が少ないことには触れないのか。

(大谷会長) はっきり言っても良いと思う。その点はむしろ総意として、蔵書が整っていないという部分に、具体的には資料費について考えて欲しいということを加えるのも1つの考え方だと思う。

(宮原委員) やはり蔵書が少ない古いつてというのが、全ての最大の問題で、これだけ資料費が削られていると、恐らくは通常のサービス、新刊本を買う、リク

エストに答えるというようなことを1年間やり続けるだけでも、十分苦しいと思う。資料費が元々少ないのに、その最低限の状態からもどんどんどんどん削られていっており、資料費を考えるというのは職員の方にはどうしようもできない部分でもあるので、むしろこういった場所で私たちが言っていないと、いつまでたってもどうにもならないと思う。

(大谷会長) 今の御意見は、例えば、「一定の質・量を備えた蔵書が必要である。」の後に、具体的には十分な資料費が不可欠であるといった表現を入れてみるということだが、いかがか。

(高井委員) 良いと思う。

(各委員) 異議なし。

(大谷会長) では今の部分の修正の提案だが、「一定の質・量を備えた蔵書が必要である」の次に、「具体的には、十分な資料費が不可欠である。」を加えた形としたい。今回は各委員の皆さん、職員の方はよくやっているということで、職員の取組についてはどなたも批判的な意見がなかったように私は受けとめている。ただ、とにかく満足度を見ると、欲しい資料がないとか、やはり蔵書に関する御指摘が多かった。なかなか相模原市の財政が厳しいことは分かっているのだが、やはり効果を上げるためには一定のレベルは必要だということで、はっきり言うこととし、協議会の意思として十分な資料費が不可欠だと指摘するものとした。では、この部分は今のよう形で急ぎ文面を直したいと思う。

(高井委員) 資料費に関して、たまたま公民館の図書室に来た子供連れのお母さんが少し話をしていたのだが、セカンドブックについて、本の種類が少ないので何人かお子さんがいらっしやると被ってしまうということで、もう少し種類を増やしてほしい、増やせないかなと言っていた。これも予算の影響なのかなと感じている。

(事務局) セカンドブックは子ども部局が予算を持っている事業のため、関係部署に伝えたいと思う。

(高井委員) どうしても同じ本になってしまうから、1人や2人ぐらいだったら良いけど、3人目ぐらいになると被ってしまうようである。

(事務局) 現状では、本の種類が3種類しかない。

(高井委員) できれば、本の種類を増やしていただけないかという話をしていた。

(事務局) 図書館と子ども部局と連携して行っていることではあるので、会議等の機会にきちんと伝えたい。

(高井委員) ぜひお願いしたい。

(事務局) 3種類だけなのだが、本自体は、図書館の職員がこういう本が良いだろうということで選んでいる。

(高井委員) できれば違った本をいただきたいと話していた。

(大谷会長) 3種類だけだと、家庭の中で重複も当然起こり得ると思う。

(事務局) セカンドブックやブックスタートの活動というのは本当に有効な事業なので、今後も継続はしていきたいとは考えている。

(高井委員) それはぜひお願いしたい。

(大谷会長) その一方で、それでせっかく家庭で本を読もうとなつて、図書館や図書室に行った時に、蔵書が寂しい状態だともったいない。

(宮原委員) 3 段落目の職員の部分について、専門的人材の確保に引き続き努めて欲しいという 1 文は加えられないか。資料 2-2 の 4 の部分で私が質問した点になるのだが、司書職が減っていたので質問したところ、回答では一応計画としては今後も努めていただけるとのことだが、念押しという意味で加えられればと考えている。

(大谷会長) 専門的職員とすると、「評価する声が多いことを指摘しておく。」の次に、「これらの取組において、専門的職員が大きな役割を担っているので、引き続き職員の確保にも留意して欲しい。」というような案になるだろうか。

(宮原委員) 専門的職員の定義が難しいと思う。有資格者と言って良いのか。

(事務局) 本来であれば、専門職採用が本市でも何人かいるので、そういう者を計画的に採用していくということが必要かと思う。

(宮原委員) 今は定年退職が出たら補充という形なのか。

(事務局) 市の人事委員会の方でも、計画的に採用するということは認識している。現在の司書職の年齢構成が大体同じ年代層となっているので、途切れないような構成にすることは必要であり、例えばここで 3 人一気に辞めてしまい、次の世代がいらないということでは困ってしまうので、そういったことになっても上手く繋がるような形にすることは必要だし、ただし当然それだけでは足りない。そのため、行政職の中で司書資格がある職員であったり、あるいは、今も司書講習は毎年派遣をしているので、そこでやる気のある職員に取得させて、活躍させるということも行っているし、今後も続けていく必要があると考えている。

(宮原委員) では、専門的職員という言葉を使って良いか。

(事務局) 司書としても良いかと思う。

(大谷会長) 図書館法上では、専門的職員のことを司書と称するので、司書で良いかと思う。司書職と言ってしまうと、専門職制として採用試験の枠組みそのものまで言及してしまうので、司書の役割が大きいから司書の確保に今後も努めて欲しいという内容の文面になるようにしたい。位置としては、「取組を実施していることを評価する声が多いことを指摘しておく。」の後に続ける形にする。

(遠藤委員) 市の職員で、行政職、事務職だと、定期的な異動が 4 年、5 年ぐらいであると思う。その中で、この専門を希望すると言って、例えば図書館専門希望と言って、図書館に勤務し続けられるような制度はあるのか。

(事務局) 勤務し続けられるかは人事の判断となるが、10 年程度在籍している職員

や、割と長く在籍している職員はいる。

(遠藤委員) 税務の分野では税務専門職員、戸籍でも戸籍専門職員というのがいるかと思うが、図書館ではこういったような制度はないのか。

(事務局) 現在本市には専任職という制度があり、福祉の部門では例えば生活保護専任職とあって、事務職だけど生活保護の事務だけを行うというような制度がある。当然、司書職として採用するということが1番ベストではあるのだが、それがあまり上手くいかない場合には、専任制度についても並行して考えていく必要があると思う。ただし、やはり1番は司書職であり、ずっと在籍となるので、優先順位としては司書職を置きたい。ご存知のとおり、役所は定数があるので、できれば行政職に代わって司書職を置くとか、そういった形で割合をもっと増やしていければと考えている。

(大谷会長) 司書職まで言うと、かなり職制そのものに対しても強く言うというスタンスになるし、一方で図書館で働いている人の全般的なスキル向上で、例えば司書の資格を取って欲しいという意味で言えば、司書の確保という言い方になるかと思う。司書職そのものという言い方は、自治体の職制そのものに対するかなり明確に強いメッセージになるので、まずは司書の確保に努めるということではいかがか。

(各委員) 異議なし。

(大谷会長) では、その形で調整したい。

(大谷会長) 他に何かなければ、そろそろ段階評価に関しての話を進めたい。職員の取組に関して内部評価がAで、恐らくそれに対して我々の異論はない。ただ、成果の達成は今一つということで、結果として全体の内部評価の総合評価は、その組み合わせだとBになるということで、50点台はBという形になっている。その点も踏まえて、我々の定性的評価としてはどう考えるかということを決めることになる。また考えた上で、少しコメントをつけるかどうかということもある。具体的には、我々の方の外部評価での段階評価は、2ページ目の(2)外部評価のABCDとなる。図書館の前で言うのも申し訳ないが、さすがにAとは評価することはできないかと思う。残念ながら図書館自身の成果達成という観点で、図書館自身も今回はできていない部分があるとしている。一方で、図書館員はそれなりに取り組みを行っており、だから成果が全く得られなかったでもない。BかCかというところでどう考えるかだと思う。

(宮原委員) これはコロナ禍という状況を考慮してということになるのか。

(大谷会長) それも含めて、私たちは定性的に判断すれば良いと思う。コロナの中で職員はよくやっている。ただ、やはり成果の達成には問題があるということは総評で書いているわけなので、そこは私たちの方は多少定性的に、もし少し辛かったあるいは甘かったかなという部分はコメントをつけて補足すれば良いかと思う。

(遠藤委員) 100%ではないが概ねできているということ、それと期待を込めるという意味も含めてBで良いと思う。

(金子委員) 私もBで良いと思う。

(大谷会長) では総合評価はBということによろしいか。また、このBに関する特記事項、コメント等はあるか。総評の方でも、今後は評価基準の達成を目指してほしいということは、要望として入れるべきと考えており、書いている。

(佐々木委員) BまたはCの結果で、予算に影響を与えるということはあるのか。資料費の不足を指摘するに当たって、今後私たちとしては資料費が増える方向を望んでいる訳だが、そのこととB、Cが示す結果は関係してくるか。

(事務局) 総合評価自体はあまり関係してこないと考えているが、評価のコメントのところに、そういった注文をつけていただくのが、1つの方法としてあると思う。

(大谷会長) 例えばCをつけたとして、総評の「以上の点を踏まえて図書館協議会としての総合評価を(1)の通り定めた」という文の後に、評価は厳しいが、これは資料費、資料費をはじめとする予算が少ないことに対してであるという旨の1文を加える。そういう状態をぜひ改善して欲しいという気持ちを込めてCにしたという言い方で、この様なやり方は方法の1つであると思う。

(佐々木委員) 市の予算を配分する仕組みの中で、評価結果が低いから予算配分額を下げるとか、そういうことは起こらないか。

(事務局) その点は影響はない。評価そのものは、教育委員会の中で報告をするものであり、公表はするのだが、これが全庁的な予算配分には関係してこない。

(高井委員) 佐々木委員が仰るとおり、評価が低いから予算配分も下がってしまうということが起きてしまうと、想いと逆の方向になってしまう。

(高柳副会長) 評価は、普通の評価をされているよりも、少しあれっという風な疑問を持たれる評価の方が、目を向けてもらえるのではないかという気はする。予算については分からない部分もあるが、予算がどうかというよりも、何かこれって良くないんだ、何とかしなければいけないという気持ちを他の人にも持ってもらえると良い。

(金子委員) 私は評価はBで、コメント欄に予算が少ないということのみを書いてという形で良いと思う。結局は蔵書が少ないということも、予算がないということであり、予算がないことからこういう状態になったというその部分のみを書けば良いと思う。後のことに関しては、職員の取組を含め全部総評に書いてある。

(高井委員) 私も、予算が少ないというそのポイントのみを記載することで良いと思う。

(金子委員) 一方で、それはCでも同じことが言えるのだが。

(大谷会長) 今回、BかCかは難しいところで、正直私も悩んでいる。ただ、Bの方が御意見としては多かったので、Bとした上で、予算が不足しているということを総合評価の下に明記し、総評としてはこうだが、予算、特に資料費が少ないということを示す感じの作りにはどうか。

(金子委員) 予算が足りないと言えるのは私たちしかいないので、それで良いと思う。

(各委員) 異議なし。

(大谷会長) それでは最後にこの評価書の作りとして、各委員の個人的意見をどういう位置付けにするかを確認したい。現状は、この様にとにかく各委員の意見を記載している形だが、改めて見ると本当にもの凄いページ数になっており、では入れないかということそれも変だと思う。そのため、本文、総評はできるだけコンパクトにしつつ、その中に結構強い表現はいくつか入っているの、読んだ人におやっ?と思わせて、どうしてこの様になったということは、資料として掲載した各委員の意見を見てもらうと分かるという作りにはできたら良いと思っている。そういった作り方であれば、逆に言うと、今後は個人の意見に関しては資料なので、思いの丈をたくさん書くことも気兼ねなくできるということでもある。もし全てを本文に入れるとなると、さすがに少し短くしてくださいとか、あるいは項目数を減らしてくださいとなるが、資料であればそういったことにはならない。では、個人意見は資料として掲載、本文はコンパクトにするという方針をここで確認し、それを踏襲するというところでよろしいか。

(各委員) 異議なし。

(大谷会長) ではその様な方針とし、総評の最後の段落の「以下は、」の文を少し変更する。「なお、協議会委員の個人的意見については、この資料の末尾に資料として掲載する。」といった文面になるかと思う。この様な表記に直して、(3)の各委員の意見については、この報告の末尾の方へ資料として移動させ、各委員の意見という見出しで掲載する。こうすれば、図書館の全部の評価と、私たちの評価を含めて10数ページで、市の幹部の方々にもきちんと見てくださいと言えるものかと思う。

(宮原委員) 意見も公開となるのか。

(事務局) 公開となる。

(大谷会長) 今回は資料として公開ということかと思う。逆に言うと、これを本文とする場合、委員間で割れた意見を載せるかどうかといったことも考える必要が出てくる。協議会としてオーソライズされているのかと指摘される可能性もある。それよりは、多様な意見があるということを実事として、資料として載せる方が良いと考えている。本文を想定して、皆が予定調和となるように意見を述べるといった、最初から自己規制するとなったら変な話なので、様々な個々の意見は尊重し、資料として必ず載せるという形に

したい。それでは、修正等は事務局と相談して、何とか今週中に我々の間で調整して、各委員に御連絡して御確認いただくという流れにしたい。また、この後は、どういう扱いとなるのか。

(事務局) 今回の協議を踏まえ評価書の記載等について修正を行い、教育委員会へ報告する。教育委員会へ報告後、公表となる。

(大谷会長) この後のてにをはの修正等は、事務局と私の方に一任にさせていただいて、もし何か修正であまりに重大なことがあったら御相談するが、基本的にはもう後は調整して、構成とかそういった部分も先ほど説明したとおり返して、後は進めていくということになる。

3 その他

市立図書館長、相模大野図書館長が令和5年3月で退職となるため、挨拶を行った。

以 上

相模原市立図書館協議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	大谷 康晴	青山学院大学コミュニティ人間科学部教授	会 長	出 席
2	高柳 眞木子	みらい子育てネットさがみはら 連絡協議会副会長	副会長	出 席
3	渡部 賢一	相模原市立相原中学校長		欠 席
4	竹内 啓子	相模原市立相原小学校長		欠 席
5	高井 登志子	相模原市公民館連絡協議会副会長		出 席
6	金子 友枝	相模原市文化協会副会長		出 席
7	宮原 志津子	相模女子大学学芸学部教授		出 席
8	小山 憲司	中央大学文学部教授		書面による出席
9	遠藤 弘一	公募		出 席
10	佐々木 彩	公募		出 席